

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	臨床薬理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2学年		学期及び曜時限	前期	教室名	新館2F,3F
担 当 教 員	金銅 容子	実務経験と その関連資格	薬剤師			
《科目目標》						
薬物の人体へのはたらきと生体側の対応を理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
【評価方法】終講試験100% 【評価基準】優:80点以上、良:70点以上80点未満、可:60点以上70点未満、不可:60点未満						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
ナーシンググラフィカ 4巻 臨床薬理 メディカ出版						
《授業外における学習方法》						
関連する解剖生理学の復習をして臨む。毎回の練習問題を必ず復習しておく。						
《履修に当たっての留意点》						
臨床薬理学では、重要医薬品について焦点をあて、体系づけて学習を進めていく。疾患の原因をとらえ原因を除去するための薬の使用と作用を理解しながら、系統別の学びへとすすめていく。看護を展開するうえで疾病の治療や症状緩和のための服薬管理や服薬指導の根拠として活用する。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	薬物動態の基礎が理解できる(吸収、分布、代謝、排泄が分かる)	臨床薬理 プリント	特になし	
		各コマにおける授業予定	医薬品の体内での流れを、肝臓での初回通過効果にも触れつつ講義します。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	受容体の違いについて理解できる	臨床薬理 プリント	マーカー部位の読み直し、配布した練習問題の解きなおし	
		各コマにおける授業予定	医薬品が反応する受容体の働きについて講義します。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	交感神経の働きと関連する医薬品について説明できる	臨床薬理 プリント	マーカー部位の読み直し、配布した練習問題の解きなおし	
		各コマにおける授業予定	α 、 β 受容体への刺激薬、遮断薬について講義します。			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	副交感神経の働きと関連する医薬品について説明できる	臨床薬理 プリント	マーカー部位の読み直し、配布した練習問題の解きなおし	
		各コマにおける授業予定	コリン作動薬、抗コリン薬について講義します。			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	全身麻酔薬、催眠薬、鎮痛薬について説明できる	臨床薬理 プリント	マーカー部位の読み直し、配布した練習問題の解きなおし	
		各コマにおける授業予定	ハロタン、ベンゾジアゼピン系薬、麻薬性鎮痛薬について講義します。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	パーキンソン病、統合失調症、躁うつ病の治療薬について説明できる	臨床薬理 プリント	マーカー部位の読み直し、配布した練習問題の解きなおし
		各コマにおける授業予定	レボドパ、ドパミン受容体拮抗薬、三環系抗うつ薬などについて講義します。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	心不全、不整脈の治療薬について説明できる	臨床薬理 プリント	マーカー部位の読み直し、配布した練習問題の解きなおし
		各コマにおける授業予定	ジゴキシンやキニジン、リドカインについて講義します。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	狭心症、高血圧の治療薬について説明できる	臨床薬理 プリント	マーカー部位の読み直し、配布した練習問題の解きなおし
		各コマにおける授業予定	ニトログリセリン、ACE阻害薬、ARBについて講義します。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	抗炎症薬、抗アレルギー薬について説明できる	臨床薬理 プリント	マーカー部位の読み直し、配布した練習問題の解きなおし
		各コマにおける授業予定	ステロイド薬やNSAIDs、抗ヒスタミン薬について講義します。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	抗悪性腫瘍薬について説明できる	臨床薬理 プリント	マーカー部位の読み直し、配布した練習問題の解きなおし
		各コマにおける授業予定	各医薬品の作用機序や、副作用について講義します。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	抗菌薬について説明できる	臨床薬理 プリント	マーカー部位の読み直し、配布した練習問題の解きなおし
		各コマにおける授業予定	β ラクタム系、アミノグリコシド系、マクロライド系、ニューキノロン系の抗菌薬について講義します。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	抗真菌薬、抗ウイルス薬について説明できる	臨床薬理 プリント	マーカー部位の読み直し、配布した練習問題の解きなおし
		各コマにおける授業予定	アゾール系抗真菌薬、抗HIV薬、抗インフルエンザウイルス薬などについて講義します。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	利尿薬、抗血栓薬について説明できる	臨床薬理 プリント	マーカー部位の読み直し、配布した練習問題の解きなおし
		各コマにおける授業予定	ループ利尿薬、アスピリン、ワルファリンなどについて講義します。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	医薬品の管理、副作用について説明できる	臨床薬理 プリント	マーカー部位の読み直し、配布した練習問題の解きなおし
		各コマにおける授業予定	麻薬・毒薬の金庫や、各医薬品の副作用について講義します。		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	まとめ・試験	臨床薬理 プリント	
		各コマにおける授業予定	まとめ・試験		